令和４年度学校評価自己評価表（評価計画）

A：100%以上　B：90%以上　C：80%以上　D：80%未満

廿日市市立佐方小学校

評価計画							自己評価						改善方策	学校関係者
中期経営目標 （めざす児童生徒像）	短期経営目標 （めざす児童生徒像）	目標達成のための具体的方策	評価項目・指標	目標値	昨年度数値	分掌	中間 10月	達成度（10月）	最終 2月	達成度（2月）	評価	結果と課題の分析		評価コメント
【確かな学力・学び続ける力】 学ぶ喜びにあふれた分かる授業を創造する。	◎学習意欲の向上を図り，基礎・基本の確実な定着を図る。	「ユニバーサルデザインを生かした授業づくり」の校内研修を実施する。	＜全国学力・学習状況調査児童質問紙＞ 課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組む児童の割合【R3市共通項目】	85%以上	87.9%	教務	81.4%	B				【全国学力・学習状況調査児童質問紙】 ・課題解決に向けて，自分で考え，自分から取り組む児童の割合は，目標をやや下回った。興味があったり，本人にとって簡単だと感じた場合は，意欲的に取り組む姿が見られるが，初めてのことや取り組む前から難しいと感じてしまったことへの抵抗感がみられる。 【国語科における思考・判断・表現】 ・学力面で課題として見えてきたのは，国語科の思考・判断・表現力の正答率で，現時点では74.3%と目標を下回った。また，「自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができた」ということを肯定的に捉えている児童は84%と目標値を下回った。 昨年度から取り組んでいる国語科の授業づくりをはじめ，日々の様々な指導の中で自分の考えをもつこと，相手に分かりやすく伝えるために必要な情報は何かを判断し，表現することを意図的，積極的に取り入れてきた。しかし，自分の考えを相手に伝えることや，そのような機会，経験がまだ十分ではないと考えられる。 【ユニバーサルデザイン】 ・校内授業研究の指導案や，授業づくりの視点の中に，ユニバーサルデザインの３つの視点を明記し，それに基づく研究協議を行っている。その結果，ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりについての肯定的な評価は93.1%であった。	・児童が課題解決に意欲的に取り組むことができるようにするために，引き続き「主体的な学び」の実現に向け，単元開発や導入の工夫など授業改善を進めていく。 ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えることについては，各学年の発達段階に応じて丁寧に，粘り強く続け，児童の変容を捉え，共有したり，励ましたりしながら，一人一人の思考・判断・表現力などの資質・能力の向上に努めていきたい。 ・ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりについては，校内授業において，支援の例の具体を提示していくことを通して，全教職員でさらなる共通理解を図っていきたい。また日々の授業において，チェックシートを活用した自己評価，管理職による他者評価を取り入れながら，授業力の向上に努めていきたい。	・児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。児童がタブレットを使って学習しているクラスも多く，これまでとの違いを感じた。 ・コロナのこともあり，昨年度は2年生での九九の定着の支援が十分できなかった。3年生になってからやるのでは難しい。今年度は徹底的に応援団を活用してほしい。九九の計算の書き込みをする（プリント）だけでなく，覚えさせることが必要。早く覚えられるように，耳から覚えさせるようにしたり，声に出して覚えさせたりして，しっかり暗唱させたい。
			＜国語科における思考・判断・表現＞ ・国語科において，期末テストの「思考，判断，表現」の観点の問題を80%以上正答した児童の割合 ・国語の学力調査（CRT）の「説明文の内容の読み取る」項目において，全国平均を上回る学年の割合 ・児童アンケートで「自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができた」という項目で肯定的評価をした割合【中学校区共通項目】	85%以上 80%以上 85%以上	80.8% － 82.2%		74.3% － 84%	C － B						
			＜ユニバーサルデザイン＞ ・ユニバーサルデザインの考えを生かした授業づくりを行っていると答えた教職員の割合【重点項目】	100%	96%		93.1%	B						
【豊かな心】 自分を大切にし他者を大切にし，集団の中で力を発揮させる。	◎「出番」「チャレンジ」「承認」する場を児童に与え，児童の自己有用感を高める。	基本的生活習慣（挨拶）に取り組む。	＜あいさつ＞ ・教職員・保護者アンケートで「児童は進んであいさつをしています」という項目で肯定的評価をした割合	75%以上	T 84% P 66.8%	生徒指導	T 86.2% P 66.7%	A				【あいさつ】 ・「児童は進んであいさつをしています」についての教職員の割合は86.2%，保護者の割合は66.7%であり，保護者の数値と教職員の数値で約20%の差がある。これは，今年度も，参観授業や行事が実施できていないことから答えにくいという状況もあってこのような結果になっていると捉えているが，学校内，学級内そして保護者と協力して「あいさつ」を大切にする心情を育てたい。 【清掃活動】 ・以前のような縦割り班での掃除はできていないが，全校で分担した担当場所を児童はよく掃除をしている。学期末には，掃除場所や人数を見直し，改善を図っている。 【自己有用感】 ・自己有用感については，県全体で減少傾向にあるという報告を受けたが，本校の児童においては，良好な状況である。来月の体育参観日に向けて，設定した学年目標のスローガンに対し個人目標や友達の頑張りを認め合うカードや，やり遂げた後の感想カードを掲示することを通して共感的な人間関係の構築を目指している。	・あいさつについては，今後も引き続き，集会委員会を中心に，よりよい挨拶のモデルを示したり，私たち教職員，保護者を含め，周りの大人が明るい気持ちの良いあいさつをする姿を見せたりしていく。また，表情が見えにくい状況の中で，大きな声であいさつすると，気持ちよいスタートができることを実感させていきたい。 ・掃除は中学校区共通項目であり，３校で揃えて取り組んでいる。児童には，時間いっぱい丁寧に掃除に取り組むことのよさを感じとることができるようにしていく。 ・今後もコロナの状況を見ながら行事を通して児童の自己有用感を育てていきたい。	・中間評価においては，コメントなし。
		自ら進んで，本気で頑張り，根気よく清掃活動に取り組む。	＜清掃活動＞ ・「時間いっぱい丁寧に掃除をしている」と回答した児童の割合【中学校区共通項目】	90%以上	93.7%		93.8%	A						
		行事や日々の生活において互いの良さを見付ける場を設ける。	＜自己有用感＞ ・「友達は，私のことを分かってくれている」で肯定的評価をした第３学年以上の児童の割合（アセス）	90%以上	85.0%		87.1%	B						
【保護者・地域との信頼関係の強化】 情報を発信し学校の教育方針を理解してもらい，地域の教育力を学校に生かす。	自ら進んで地域行事等に参加し，地域に親しみを感じる児童を増やす。	地域素材を生かした学習を各学年で実施し，地域に愛着をもつ児童を育成する。	＜ふるさと学習＞ ・各教科・領域等で，地域に愛着がもてるように単元を構成して授業を実践した学年の割合	100%	96.0%	生徒指導	83.3%	C				【ふるさと学習】 ・PTA会長様，前PTA会長様をはじめ，ぽんぽこ応援団の皆様・保護者の皆様のお力添えをいただき，子どもたちに豊かな学びを提供することができている。 ・１年生以外の学年は，既に生活科や総合的な学習の時間に単元を実施している。１年生は，３学期に予定しており，全学年で実施予定である。	・佐方小学校区に既存する学習内容の見直しを行い，さらに発展させ児童が自ら課題を発見し，その解決に向けて主体的に取り組めるような内容にしていくことで，目標値の達成につなげていきたい。	・授業の中（単元名など）で「佐方」という言葉が使われていたが，佐方小に通っているのは，佐方地区の子だけではないので，平良山手地区の児童への配慮をしてほしい。
【体力の向上・健康な体】 すべてのエネルギーの源である健康を保持し体力を向上させる。	日常的に運動を奨励し，基本的な生活習慣の確立を図る。	家庭での規則正しい生活の送り方についての意識の向上に取り組む。	＜就寝時刻＞ ・学期ごとにアウトメディア，睡眠の調査を行い，生活リズムチェック週間の期間中，４日/５日，目標達成できた児童の割合	85%以上	85.7%	健康教育	74.1%	C				【就寝時刻・朝ごはん】 ・朝ご飯については，ご家庭のご協力のもと，目標値を上回る結果となったが，就寝時間については，昨年度の達成度を大きく下回り目標値を上回ることができなかった。コロナ過の影響で，家庭内で過ごすことが多くなりテレビを見たり，ゲームをしたりする時間が増えているのかもしれない。また，達成度Bではあるが学校生活における外遊びも昨年度の達成度を下回っていることも関連していると思われる。 【コロナウイルス感染症対策】 ・健康チェックカードについては，担任が毎日確認し児童の健康状況の把握に努めている。カード忘れ，検温忘れの児童は自分で気付いて職員玄関で検温し，担任に確実に報告することができている。忘れる児童が固定化している状況は現時点ではない。 【外遊び】 ・新型コロナウイルス感染症対策として，全校児童によるロング昼休憩を中止にしている。また，熱中症予防のための運動指針に基づき，暑さ指数が危険値を示した時も外遊びを禁止した。更に今年度も新体力テストや水泳指導が中止となり，体力向上を図るために必要な体を動かす機会が非常に少なくなっている状況でなどもあり，達成度はBにとどまっている。	・今後の分析が必要ではあるが，就寝時間が遅くなったりテレビやゲーム，動画などに触れる機会が増えたりしている原因は，コロナ禍における家庭での過ごし方にも関係があるように思われる。学校だよりや保健だより，更には学活等の学級指導もとおして呼びかけや指導をしていく必要がある。 ・健康チェックカードの提出状況については，ほぼ100%の達成率で，保護者の意識も高まってきているように考えられる。今後も保健だより等で保護者の意識にアプローチしていけるようにする。児童には引き続き丁寧な声掛けを行っていく。 ・外遊びについては，大休憩・昼休憩には児童と一緒に運動場でサッカーや鬼ごっこをして遊ぶ担任の姿や全員遊びを企画する児童の姿が増えてきた。全校では，朝の体力アップタイム体操を実施したり，授業においても，運動量が確保された授業づくりを目指していく。	・児童の中に，朝食を食べずに登校している子がいる。朝食を食べてない理由（遅く起きた，用意されていないなど）を把握してはどうか。就寝時刻に関しても，平均睡眠時間がどれくらいかとか，何時に寝ているのかという実態把握も必要ではないか。 ・保護者は共働きの家庭も多く，大切なこととは分かっていても，全部を完全に実施するのは難しい。それをするのが難しい家庭もある。しかし，PTAとして保護者にフォローしてもらえるよう保護者にお願いする。 ・児童がネット等に時間を取られすぎると心配。ラインなどの文面だけでは，伝わらないことがあり，誤った捉えをされてしまうこともある。児童には，文章の大切さを教えるとともに，寛容な受け止めや会話の大切さを教えてほしい。
			＜朝ごはん＞ ・毎日，朝食を食べて登校する児童の割合 ・食に関するアンケート結果や生活リズムチェック週間の５日/５日，目標達成できた児童の割合	90%以上	96.2%		P 98.1% C 94.7% 92.2%	A						
		日々の健康管理に取り組み，「新しい生活様式」の徹底を図る。	＜コロナウイルス感染症対策＞ ・毎朝計測した体温と体調についてを健康チェックカードに記入し，登校後担任に提出する児童の割合	100%	98.2%		98.4%	B						
		体力づくりに取り組む。	＜外遊び＞ ・１日１回，外遊びができた児童の割合 「昼休憩などにしっかりと外で遊んでいますか」という項目で肯定的評価をした児童の割合	70%以上	66.2%		64.0%	B						
【風通しのよい職場づくり】 子どもと向き合う時間を確保し，教育の質の向上を図り，教職員一人一人が健康で，生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	◎学校における自律的な業務改善・業務削減の推進を図る。	校務分掌の見直しを図る。 定時退校日の設定を行い，教師のワーク・ライフバランスの推進を図る。	＜子どもと向き合う時間＞ ・子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合	90%以上	92.8%	教務 生徒指導 健康教育	68.9%	D				【子どもと向き合う時間】 ・時間外勤務時間が長くなりがちな教員もおり，年度当初から，働き方改革や業務の効率化に向けて業務改善に取り組んでいるが，子どもと向き合う時間が確保されていると感じると肯定的に捉えている教職員の割合は，68.9%にとどまっている。 【効率的な働き方】 ・毎週１回行っていた会議を月２回に変更して，学級事務等の時間確保をした。また，18時には退校する日を月１回設定したり，出来るだけ早く帰るように声掛けをしたりした。これらの取組みにより，少しずつ時間外勤務時間は減少している。時間外勤務時間が月平均80時間以上の教員の割合は，減少傾向にあり、８０時間未満の教職員の割合は97.2%だった。月平均45時間未満の教員の割合は平均で61.5%だが、8月は100%だった。	・再度子どもと向き合う時間の定義の確認をするとともに，勤務状況について一人一人が意識できるよう入校退校時刻記録票を確認する。定時退校日を設け，徹底していけるよう，引き続き教職員のワークライフバランスの推進を図っていく。未だ，土日に仕事に来ざるを得ない職員もおり，改善のための対応策が急がれる。 ・学級事務や学年会の時間を確保し，協働的な授業計画・教材作成を行いながら，放課後の時間を有効に活用できるようにしていく。	・教職員の肯定的評価が低いのは，「子どもと向き合う時間」の定義が伝わっていないことが考えられる。先生方は，一生懸命に取り組んでいるので，超過勤務にならないように引き続き業務改善の取組みを進めてほしい。 ・仕事内容に対する時間のかけ方などの基準はあるか。個人によって，一つの仕事にかける時間にも差があるので，何か基準のようなものがないと，業務改善や評価も難しいのではないか。 ・教育は人づくり。人づくりの場合，時間では区切れない。働き方改革を進めることで教育の質が落ちないようにフォローしてほしい。
			＜効率的な働き方①＞ ・時間外勤務時間が月平均80時間未満の教職員の割合	100%	100%		97.2%	B						
			＜効率的な働き方②＞ ・時間外勤務時間が月平均45時間未満の教職員の割合	100%	66%		61.5%	D						